

適用上のご注意

- ・適用車種例は標準車高・無乗車・静止状態の実測値を基準に作成されております。
- ・適用車種例はあくまでも参考値であり、掲載されているホイール、タイヤを装着して法令で定められた車検、点検に合格することを保証するものではありません。
- ・車両の年式・型式・グレードにより適用が異なる場合があります。
- ・車のフェンダークリアランスなどの左右バラツキ、タイヤサイズ・銘柄の個体差（総幅、外径）による車体からの突出や接触、走行による接触等の不具合につきましては保証致しかねます。
- ・タイヤの選定の際には必ず販売店やタイヤメーカーに速度記号やロードインデックスなどをご相談の上、車に適用し安全であることをご確認ください。これらが不足しますと、タイヤの耐久性や車両の安全性を損なう恐れがあります。
- ・実際にタイヤを装着する前に、必ずホイール単体を車両に仮当てしブレーキキャリパーやサスペンションなど車体への接触が無い事をご確認ください。
- ・最終的な選択は販売店にご相談の上、ご自身の責任でご選択くださいますようお願いいたします。
- ・純正ホイールサイズからのインチダウンは、適用外とさせていただきます。
- ・車両側、取り付け面にビスが付いている場合、ビスの取り外しが必要な場合があります。
- ・車両側、スタッドボルトにワッシャーが付いている場合は、ワッシャーの取り外しが必要な場合があります。

軽合金ホイールの安全基準

- JWL (JWL 基準適合マーク JAPAN LIGHT ALLOY WHEEL の略)



「乗用車用軽合金製ディスクホイールの技術基準」
この基準は乗用車（乗用定員 11 人以上の自動車、二輪車及び側車付二輪自動車を除く）用軽合金ホイールに適用されている安全基準です。
この技術基準に定められた試験を製造者自らの責任において行い、適合したものについて JWL のマークが表示されます。

- JWL-T (JWL-T 基準適合マーク JAPAN LIGHT ALLOY TRUCK & BUS の略)



「トラック及びバス用軽合金製ディスクホイールの技術基準」
この基準はトラック・バス用軽合金ホイールに適合されている安全基準です。この技術基準に定められた試験を製造者自らの責任において行い、適合したものについては JWL-T のマークが表示されます。

- VIA (品質検査適合マーク VEHICLE INSPECTION ASSOCIATION の略)



JWL、JWL-T 基準に定める適合商品であるか否かを第三者公的機関の（財）日本車両検査協会が試験を行い「自動車用軽合金製ホイール試験協議会」が確認するもので、JWL、JWL-T 基準による厳格な品質・強度再確認試験に合格したものについては、VIA マークが表示されます。

使用上のご注意

アルミホイールを正しく安全にご使用いただくために

アルミホイールは「軽合金製ディスクホイールの技術基準（乗用車用に JWL、トラック・バス用に JWL-T）」に適合し、更に、「自動車用の軽合金製ホイール試験協議会」の厳格な品質・強度再確認試験に合格し、VIA マークを与えられていますが、安全のための記載内容を守ってご使用ください。また、お取り付け・ご使用になる前にアルミホイールに同梱の取扱い説明書を必ずお読みになり、必要な時にはすぐに取り出して見られるよう保管してください。

取付け前に

- 確認** ホイールは**サイズ・穴数・PCD・インセット・取付け面形状**の組み合わせで、車への装着可否が決まります。販売店にご相談のうえ、必ず装着車両に適合した無理のないホイール・タイヤを使用してください。エアバルブは必ず付属の**専用バルブ（又は指定バルブ）**をご使用ください。
- 注意** バルブがホイールのバルブ穴に適合しないと、空気漏れの危険性があります。なお、バルブは、グロメット（エアシール用のパッキン）の老化等により空気漏れの原因となることがありますので、必ず**新品バルブ**をご使用ください。
- 確認** タイヤ組み後は、**空気漏れがないか**を必ず確認してください。タイヤとリムとの勘合部や、バルブ周辺部を特に注意してご確認ください。
- 確認** タイヤ組み後は、**必ず全輪ともホイールバランスを調整してください**。バランスが狂っていると異常振動やタイヤの偏磨耗の原因となります。
- 警告** ホイールの取付けナット座は、テーパ座、球面座、平面座等の種別があります。**車側のネジ径、ピッチを確認の上、必ず座の径に合ったナット（もしくは、指定の専用ナット・ボルト）**を使用してください。形状の異なるナット・ボルトは十分な締め付けができない為、走行中に緩んだり、はずれる危険がありますので絶対に使用しないでください。
- 注意** 取付けナット・ボルトの締めすぎは、ボルト穴の変形、及びボルト破損などが発生することがあります。締め不足は、取付けナット・ボルト緩みの原因となります。**推奨トルク**（M12 で 9 ～ 12kgf・m 又は 88N・m ～ 118N・m、M10 で 5 ～ 7kgf・m 又は、49N・m ～ 69N・m）で締めてください。インパクトレンチ使用の場合は低いトルクで仮締めし、その後推奨トルクで締めつけてください。
- 注意** 車種によっては、ブレーキドラム仮止め用ビスや位置決めピンが出ており、これが製品の取付け面などに当たる場合は、装着不可となる場合もある為、取扱い販売店にご相談ください。

取付け・使用方法

- 警告** 車両への装着は、**車体、サスペンション部品などと接触がないか（前輪はステアリングを左右に切って）**ご確認ください。**タイヤ・ホイールが車体からはみだす事は、法令で禁止されています**。今一度、販売店又はメーカーにご確認ください。
- 注意** 走行前にはタイヤの**空気圧点検**を必ず実施してください。空気圧不足は小さな衝撃でもタイヤ・ホイールを傷める原因となります。
- 確認** **装着初期やローテーション後は**、取付けナット・ボルトが緩みやすいので、**約 100km 走行後推奨トルクで増し締めしてください**。また、センターキャップ・プレート固定ボルトの締め付けのご確認も同時に行ってください。その後も定期的に推奨トルクにて増し締めをしてください。
- 警告** **急発進・急制動・急旋回などの無理な走行、乱暴な運転は**、タイヤホイールを傷めるだけでなく重大な事故の原因にもなりますので**絶対に行わない**でください。
- 注意** **歩道・縁石・凸凹などへの乗り上げ**はホイールが変形したり亀裂が生じやすいので注意してください。

異常発生時の処理

- 注意** **走行中に異常振動や異常音などを感じたら、直ちに安全な場所に停車し、点検してください**。変形等を起こした場合は、販売店もしくは、メーカーにご相談ください。
- 警告** 変形したり亀裂を生じたホイールを**お客様自身等による修理、加工は絶対に行わない**でください。溶接の熱の影響を受けたり、変形部分を曲げることにより、ホイール全体に目視では判断出来ない歪が生ずるなど、ホイールの強度低下を招き、事故に結びつく危険性があります。
- 警告** 組立式（2・3 ピース）ホイールのリムとディスクの結合ボルトは、製造時に規定トルクで締め付けています。**お客様自身等による増し締めや、緩めなどは逆にボルトの劣化、ゆるみやはずれにつながりますので絶対に行わない**でください。

その他

- 確認** アルミ合金は、耐腐食性に優れていますが、泥等が付着した状態で長時間放置していると光沢にムラが出る場合がありますので、洗浄し**常にきれいな状態でご使用ください**。
- 確認** 降雪地域の道路凍結防止剤、海岸地域の塩水や潮風は、アルミ合金に対して非常に有害です。**走行後、よく水洗いをしてください**。
- 確認** 一般に市販されておりますホイールクリーナー及びボディクリーナーを使用の際には説明書をよくお読みください。